

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 1 回近江八幡市オープンガバナンス推進協議会		
開催日時	令和 2 年 1 0 月 2 8 日（水） 14時00分 ～ 16時00分		
開催場所	近江八幡市役所 4 階 第3・4委員会室		
出席者	出席者（敬称略） 委 員 奥村 裕一、佐藤 典司、杉浦 裕樹、堤 昭憲、重野 弘樹 中嶋 俊明、矢倉 敬一、松岡 静司、大嶋 英寿、田口 真太郎 的場 保典、山田 恵美、谷口 晟士、原田 智弘 （欠席）中出 正幸		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 村田 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局	1. 開会
市長	2. あいさつ 民間が社会の発展を担ってきた高度成長が終焉し社会の転換期を迎えた中で、地域課題を解決するには官民協働は不可欠でありオープンガバナンスは将来の根幹をなすものと考えており、先進事例はあるものの試行錯誤することになると思うが、まちづくりの大きな推進力として期待している。
事務局	3. 委員委嘱 (公務により市長退席)
各委員	4. 委員自己紹介
	5. 話題提供 (1)「市民も変わる行政も変わるオープンガバナンス」 資料3 一般社団法人オープンガバナンスネットワーク 代表理事 奥村 裕一氏 (2)「事例紹介～横浜市の取り組みについて～」 資料4 NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 代表理事 杉浦 裕樹氏
事務局	6. 会長・副会長の選任 会長は委員の互選により決定 委員の中から奥村委員の推薦があり、全委員に奥村委員の会長を諮る ⇒会長) 奥村裕一委員 副会長は会長が指名する ⇒副会長) 松岡 静司委員
会長	
事務局	7. 今後スケジュール ● これまでの取り組み、今後の協議会の進め方について説明 資料5
会長	意見交換（オープンガバナンスに対する考えや希望、話題提供の感想など）
委員A	● （話題提供に対して）オープンガバナンスの4原則はどういう経緯で残ったのか。 ● （横浜の）「おたがいハマ」はすごいデータ量である。運営には人手が必要だと思うが。
委員B	● 地域課題を行政から出すことで進めているが、行政から出す課題は市民の立場からすると少し遠いという背景があり、行政が市民の声を聞くなりして地域課題を見つけていく進め方もよいと思っている。そのことにより市民も自分ごととして解決策を見つけることにつながる。その中には、市民が見つけた解決策を一部市役所が担うということもありえる。

委員C	● 市役所は、オープンガバナンスを支えるプラットフォームになるべき。最初から決めつけずに、お互いに分担しながら進めるイメージである。 ● 「おたがいハマ」は、LOCALGOOD 横浜の一部として、2014 年から始まり、市民ライター（書いて発信する人たち）の緩い繋がりにより、コミュニティは700人になった。若者連盟による ESD（Education for Sustainable Development）のバックグラウンドがあり、当初は6～7人であったが、コアメンバーを中心に広がった。
委員D	● 自治会には様々な問題がでてくる。年代によっても違うし、一つの自治会でも違う問題がでてくる。官と民の連携を少しでもお手伝いしたい。
委員E	● まちづくり協議会は、10 年程前から住民参加を掲げて取り組んでいるが、実態は住民の意見をしっかりと吸い上げることができていない。自治会を中心としてまち協を運営しているので、自治会に加入していない人は関わりにくい。この取組は、自治会未加入者の意見も聞けるものと期待している。
委員F	● 「社会の課題をどのように自分事とするか」というのが一番難しい。仕掛けが必要と思うので、一緒に考えていきたい。
委員G	● 社会福祉協議会では、共に支える地域づくりとして、地縁の組織とテーマ型の活動を行っている。 ● 一緒につくっていくオープンガバナンスの思想は共感できる。色々な面での連携が図られるとよい。その実現のためにも顔が見える関係づくりが大事。
委員H	● COG は行政が課題を出して、学生や民間がアイデアを出す仕組で、わかりやすくいい。 ● 商工会議所でも会員から相談がある。会員の中には、会議の場に参加することまでは控えるという方や、ご商売で参加できない方もいる。気軽な気持ちで意見が出せる場であると期待している。
委員I	● 市民の方にいかに自分事で考えてもらえるかというのが大事。 ● コミュニケーション の取り方が変化している中、デジタルを重視する人もいるので、多くの意見を聞いていきたい。
委員J	● 使い手の立場で考えることが大切。 ● オープンガバナンスは、試行錯誤しながらすすめていくもの。 ● 人が大事。核となる人が引っ張ることで、進め方や仕上がりが変わる。
委員C	● 行政はしっかりやらなければならないという視点やしほりもある。その中で色々な人と関わる必要がある。コアとなる人、企画や情報等を繋げる存在が必要。 ● ガチガチではなくよい雰囲気を進める事が大事。 ● 参加して何が嬉しいのか、情報提供したときに嬉しいとはどういうときかを考える必要ある。達成感、ポイント、何かに招待など、参加して何か楽しいと感じてもらえる仕組み（インセンティブ）を作ることが大切。
委員K	● 5 年前長浜市で獣害に困っている市民と罾づくりを作った。もし、市役所と連携できていれば、もっとよい活動ができたと思う。
委員L	● 地域の情報の見える化ができれば、もっと莫大な情報が市民から入ると思

委員M

- う。
- ポイントを付けるなどのインセンティブがあれば、市民により認知してもらうことができ、もっと加速すると思う
 - リアルとデジタルを連携するファシリテータがキーになるという印象。これをどこが担うのかについてどのような考えをお持ちか。
 - インセンティブがなければ、誰も見向きもしない状況になる恐れがある印象。

委員B

- ファシリテータは聞き役に徹し、個人や団体の思いや考えをそのまま理解する方がいい。

委員N

- 2 年前住民意識調査をして出た課題についてチームづくりをした。手を挙げた人も当て職の人もいたが、いざ参加してしまえば当て職の方からも活発な意見が挙がった。場をつくることで、そのような機会をつくることができる。

終了